

カシワ	<i>Quercus dentata</i> Thunb.	情報不足
		ブナ科
選定理由	県内では産地がある程度限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。県内の個体は全てまたは大半が植栽または逸出起源と思われ、自生個体の分布は不明。	写真(高野裕行)
形態の特徴	落葉高木。樹皮は不規則に割れ、灰褐色。成葉の上面は無毛で光沢ある緑色、下面は無毛で淡緑色、洋紙質、葉柄はやや長い。葉身はアベマキとクリに似て長卵形-長楕円状被針形、鋭尖頭-鋭頭、基部は円形、芒状鋸齒縁、葉脈は約15。花は4-5月。堅果は翌年秋に暗茶褐色に熟し球形、殻斗は半球状、総苞片は広線形でねじれて開出。	
生態的特徴	丘陵地や山地の落葉広葉樹林に生育する。人家付近にもみられる。	
分布状況	北海道、本州、四国、九州。ロシア極東、台湾、朝鮮(済州島を含む)、中国、モンゴル。県内のあちこちに点在する。集落付近や樹林林縁などで見られ、山林中に生えるものはほとんどない。	
減少要因	丘陵地の開発による生育地の消失。	
保全対策	丘陵地の開発の抑制。	
特記事項	葉を餅を包むのに使うため植栽されたことも多く、人家に植栽されることもある。県内の個体は植栽か逸出起源が多いと推定され、もともとの自生個体が存在するかどうか自然分布が不明である。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II a. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Fagaceae H. Ohba	

文責: 高野裕行